

# あひるさんと時計とけい

村山 篝子

なん まね こども  
何でもかでもひとの真似をしたがるあひるさんがありました。まだ子供でし

むり おお とけい も  
たから無理ありませんが、大きなあひるさんたちが時計を持っているのを

み ほ たま とう ねが とう とけい  
見て欲しくて堪りません。お父さんをお願いしました。「お父さん、時計を

か くだ とう い おお  
買って下さい。」お父さんは言いました。「もっと大きくなったらにしよう。」

あひるさんは、すぐおばあさんのところへ行きました。「おばあさん、僕に

とけい か くだ み い  
時計を買って下さい。」おばあさんはあひるさんをよく見て言いました。

まえ ちい おお なみだ  
「お前はまだ小さいから大きくなったらにしましょう。」あひるさんは涙

で き じだんだ ふ おも おお むしめがね  
が出て来ました。地団駄を踏もうと思いましたが、すぐに、大きな虫目鏡を

おばあさんに渡して言いました。「おばあさんは目が悪いから、これでよ

み くだ ぼく おお むしめがね  
く見て下さい。僕はとても大きいんだから。」おばあさんは虫目鏡をかけて

あひるさんを見直しましたら、あひるさんはもうお父さんのように大きく

み おも さいふ かね だ  
見えました。おばあさんはなるほどと思って 財布からお金を出してあひる

さんにやりました。あひるさんはそれを持って時計屋さんに行きました。

ところが、あひるの時計屋さんの品物は、人間が使い古した時計ばかり売

あたら とけい ひと なぜ  
っていて、新しい時計などは一つだってないのです。何故って、あひるの

しょうこう とけい きかい  
職工さんたちに、時計のあのややこしいぜんまいや機械がこさへられると

思いますか？あひるさんは何にも分らないので、よりによってよく光ったの

か  
を買いました。